

# 北九州市営バス事業あり方・役割検討会議

## 資料集

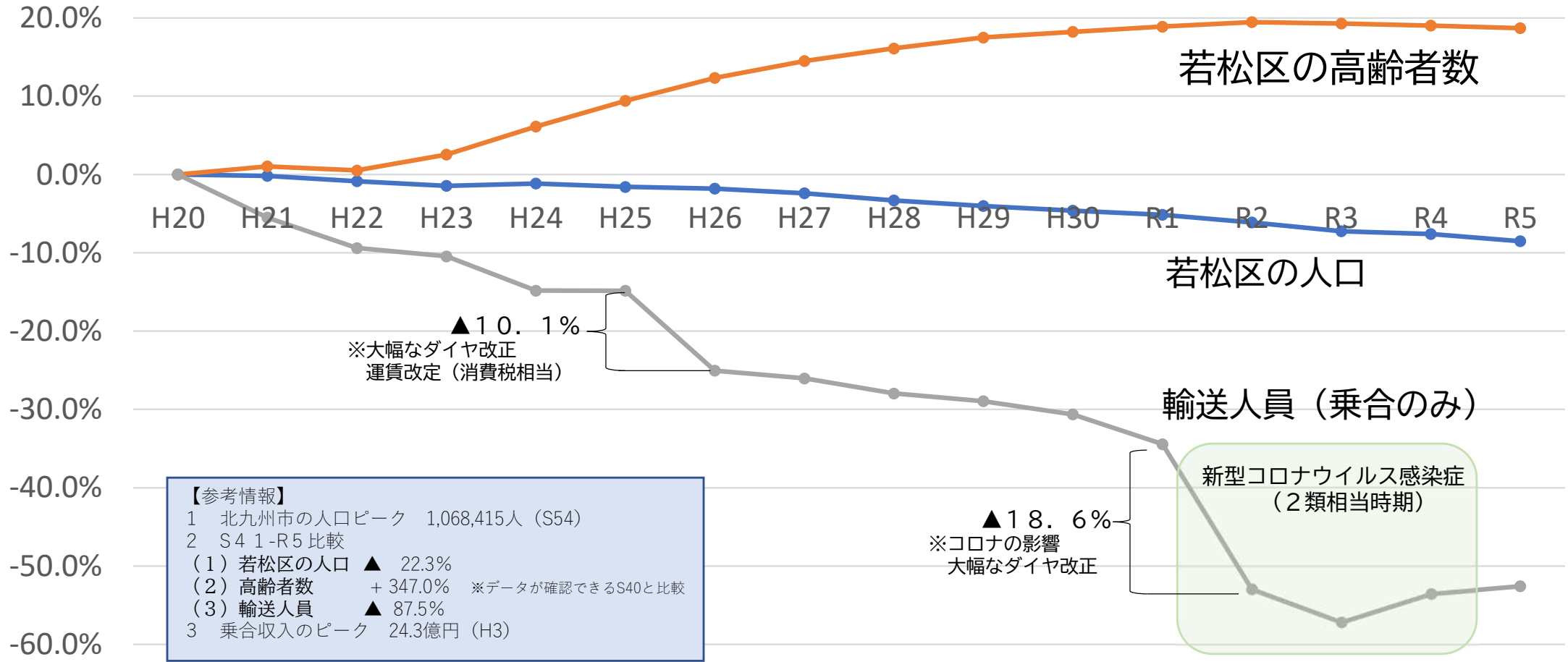


令和6年10月29日  
北九州市交通局



※各ページの番号・タイトルは会議資料と合わせています。

# 2 - (1) 市営バスを取り巻く現状 (若松区の人口、高齢者数、輸送人員)



	参 考				H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	S38	S40	S41	H3																
若松区人口	105,901 ※最多	103,656	102,304	88,140	86,869	86,717	86,118	85,604	85,855	85,493	85,297	84,788	83,987	83,365	82,859	82,402	81,547	80,563	80,272	79,481
若松区高齢者数	-	5,909	-	12,344 ※H2参考	22,256	22,483	22,370	22,819	23,615	24,347	25,000	25,479	25,839	26,148	26,309	26,455	26,585	26,546	26,487	26,414
高齢化率	-	5.7%	-	14.0% ※H2参考	25.6%	25.9%	26.0%	26.7%	27.5%	28.5%	29.3%	30.1%	30.8%	31.4%	31.8%	32.1%	32.6%	33.0%	33.0%	33.2%
輸送人員合計 (乗合のみ)	29,103,000	30,549,000	31,166,000 ※最多	15,537,000	8,224,242	7,770,777	7,451,551	7,364,199	7,004,122	7,002,868	6,164,469	6,082,705	5,924,826	5,843,590	5,703,714	5,392,140	3,867,907	3,522,501	3,820,084	3,900,360

## 2 - (1) 市営バスを取り巻く現状 (収支)

- ・乗合収入は、年々減少。特に、令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少
- ・貸切収入は、営業強化により、増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年は減少、令和3年以降は回復傾向にあるが、コロナ禍前までは回復していない。
- ・受託収入は、営業強化により年々増加、コロナ禍にあっても、特別支援学校の増便等により、収入を維持
- ・収益的収支は、平成27年度に黒字となったが、平成28年度以降は赤字。
- ・年度末累積資金剰余も平成27年度は16.5億円であったが、令和4年には3.6億円まで減少

単位：千円

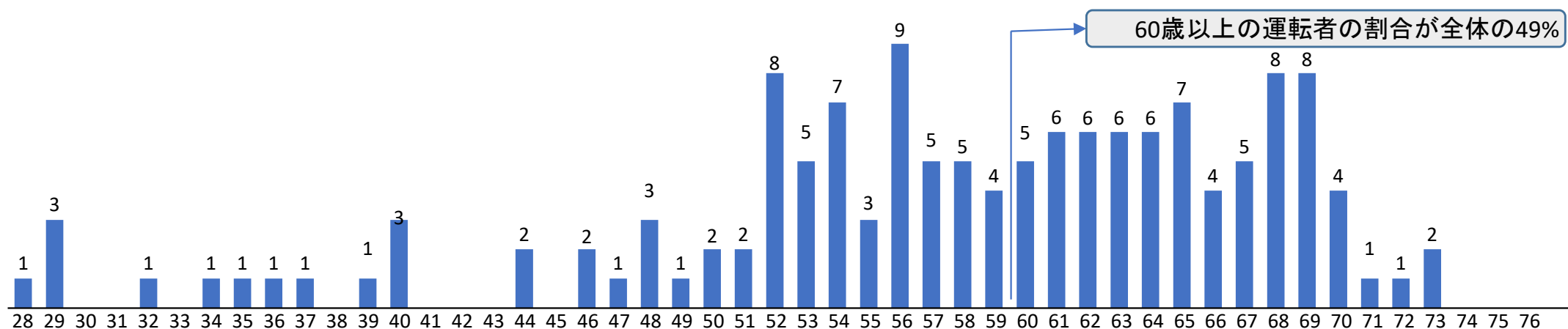
新型コロナウイルス感染症の影響

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
収 益	1,840,140	1,824,337	1,838,886	1,793,462	1,811,541	1,867,060	1,804,703	1,760,564	1,694,320	1,865,296	2,062,730
うち乗合収入	1,122,251	1,089,499	1,087,144	1,060,460	1,045,776	1,019,078	970,955	685,744	651,883	746,987	767,445
うち貸切収入	231,714	212,607	238,168	238,731	256,752	277,396	250,872	109,797	230,636	232,167	234,468
うち受託収入	232,594	232,009	216,442	248,129	283,027	307,139	363,478	496,841	491,951	547,307	452,113
うちコロナ補助金	-	-	-	-	-	-	-	111,812	96,800	-	-
うち土地売却益	-	-	-	-	-	-	-	141,139	-	-	-
うち経営支援補助金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	300,000
費 用	1,834,477	2,457,381	1,764,853	1,825,295	1,906,730	1,938,366	1,980,261	1,863,411	1,885,645	2,062,944	1,909,643
うち職員給与費	1,171,806	1,177,578	1,147,130	1,179,731	1,214,708	1,232,967	1,233,306	1,203,695	1,149,060	1,150,360	1,134,226
うち燃料費	186,150	170,505	124,713	118,503	138,530	163,449	158,621	108,770	143,940	160,895	154,861
収益的収支	5,663	▲ 633,044	74,033	▲ 31,833	▲ 95,189	▲ 71,306	▲ 175,558	▲ 102,847	▲ 191,325	▲ 197,648	153,087
単年度資金収支	66,513	▲ 73,425	3,658	▲ 82,330	▲ 65,510	▲ 99,779	▲ 255,575	▲ 205,552	▲ 280,633	▲ 297,025	149,786
年度末資金剰余	1,716,675	1,643,250	1,646,908	1,564,578	1,499,068	1,399,289	1,143,714	938,162	657,529	360,504	510,290

## 2 - (1) 市営バスを取り巻く現状（運転者の状況）

- 令和元年度に163名いた運転者数が、令和6年4月1日には141人まで減少
- また、運転者の高齢化（平均年齢57.6歳）が進展しており、60歳以上の運転者の割合が全体の49%。今後の更なる退職者数の増加が見込まれる。  
※西鉄バス北九州（60歳以上の割合）：12%【R3年3月時点】

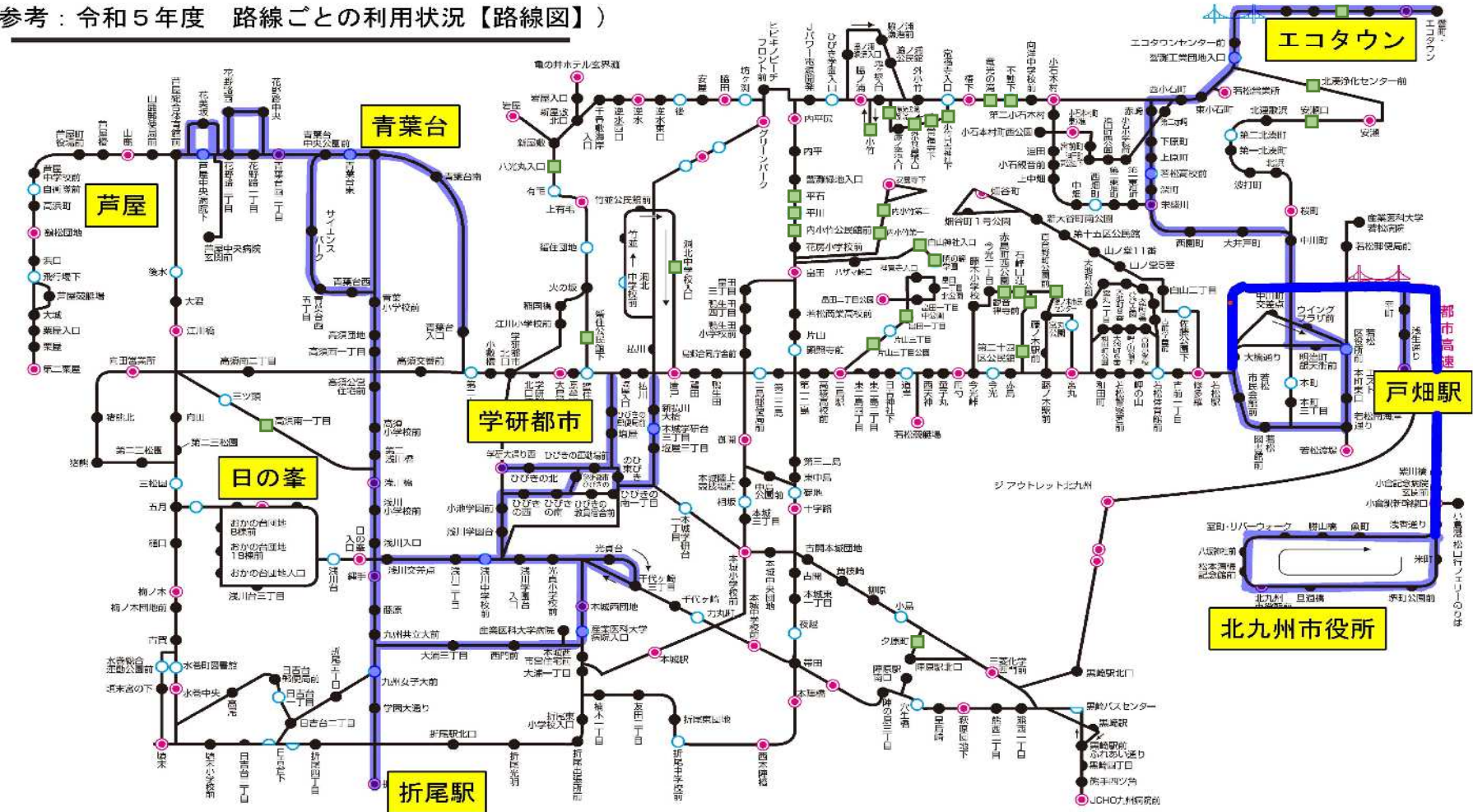
運転者の年齢構成（R6年4月1日、人）



## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題 (バス需要の減少傾向①)

- 現状、北九州市営バスの大部分の路線が赤字

(参考：令和5年度 路線ごとの利用状況【路線図】)



利用状況の黒字路線(青線)を示した路線図

■：バス停の利用状況下位30 ※P7参照

## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（バス需要の減少傾向②）

- 1カ月の乗降者数がゼロのバス停も14か所、下位30か所では3人以下となっており、ほぼ使われていないバス停も多い

### ★ 1日の利用者が3人以下（主に北西部・お買い物バス路線）

118/380バス停⇒3,157人（1カ月の利用者数）

**バス停割合：31% 利用割合：0.6%**

【北西部・お買い物バス路線の人口】  
12,656人①（若松区の約16%）

【北西部・お買い物バスの利用人数】  
約105人/日②（3157人÷30日）

【人口に対する利用割合（②÷①）】  
0.8%

### ★ 1日の利用者が4人以上（主に折尾エリア）

262/380バス停⇒519,383人（1カ月の利用者数）

**バス停割合：69% 利用割合：99.4%**

※令和5年2月1日～令和5年2月28日間のバス停利用人数



## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（バス需要の減少傾向③）

- ・ 1カ月の乗降者数がゼロのバス停も14か所、下位30か所では3人以下となっており、ほぼ使われていないバス停も多い

### バス停の利用状況下位 30

R5.2.1～R5.2.28間のバス停利用人数

	バス停名	乗車	降車	合計	利用割合
1	観音禅寺前	0	0	0	0.0%
2	暁の鐘学園	0	0	0	0.0%
3	小竹日吉神社下	0	0	0	0.0%
4	常福寺下	0	0	0	0.0%
5	赤島町西公園	0	0	0	0.0%
6	第二十四区公民館	0	0	0	0.0%
7	洞北中学校入口	0	0	0	0.0%
8	内小竹第一	0	0	0	0.0%
9	畠田一丁目	0	0	0	0.0%
10	八光丸入口	0	0	0	0.0%
11	平川	0	0	0	0.0%
12	夕原町	0	0	0	0.0%
13	竜光の滝	0	0	0	0.0%
14	竜光の滝別院	0	0	0	0.0%
15	下二	0	1	1	0.0%

	バス停名	乗車	降車	合計	利用割合
16	外小竹公民館入口	0	1	1	0.0%
17	石峰山荘	1	0	1	0.0%
18	内小竹第二	0	1	1	0.0%
19	百合野町公園前	1	0	1	0.0%
20	不動下	1	0	1	0.0%
21	北湊浄化センター前	0	1	1	0.0%
22	安瀬口	0	2	2	0.0%
23	高須南一丁目	2	0	2	0.0%
24	小竹	2	0	2	0.0%
25	内小竹公民館前	1	1	2	0.0%
26	白山神社入口	0	2	2	0.0%
27	平石	0	2	2	0.0%
28	片山三丁目公園	1	1	2	0.0%
29	蟹住公民館下	2	0	2	0.0%
30	響灘工業団地第三	1	2	3	0.0%

※SWAT分析データより抽出（期間：R5.2.1～R5.2.28）

## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（バス需要の減少傾向④）

- 上位30か所のバス停の利用者は、全体の約60%を占める。

### バス停の利用状況上位30

R5.2.1～R5.2.28間のバス停利用人数

	バス停名	乗車	降車	合計	利用割合
1	折尾駅	29,026	32,711	61,737	15.0%
2	戸畑駅	9,982	8,590	18,572	4.5%
3	大橋通り	8,210	9,493	17,703	4.3%
4	第一二島	9,654	7,119	16,773	4.1%
5	高須公営住宅前	5,058	5,434	10,492	2.6%
6	学園大通り	5,988	2,368	8,356	2.0%
7	小倉駅新幹線口	3,678	4,300	7,978	1.9%
8	九州女子大前	3,308	3,305	6,613	1.6%
9	栄盛川	3,351	3,037	6,388	1.6%
10	若松図書館前	3,425	2,664	6,089	1.5%
11	若松市民会館前	3,218	2,768	5,986	1.5%
12	学研都市ひびきの	2,539	2,968	5,507	1.3%
13	九州共立大前	1,981	3,216	5,197	1.3%
14	本町三丁目	2,526	2,255	4,781	1.2%
15	若松高校前	1,922	2,733	4,655	1.1%

	バス停名	乗車	降車	合計	利用割合
16	浅生通り	1,937	2,673	4,610	1.1%
17	藤原	2,385	1,895	4,280	1.0%
18	浅川入口	2,043	2,075	4,118	1.0%
19	二島駅	2,162	1,904	4,066	1.0%
20	青葉小学校前	1,661	1,821	3,482	0.8%
21	高須小学校前	1,720	1,630	3,350	0.8%
22	若松区役所前	1,453	1,890	3,343	0.8%
23	第二浅川橋	1,537	1,465	3,002	0.7%
24	宮丸	1,529	1,391	2,920	0.7%
25	縄手	1,548	1,285	2,833	0.7%
26	修多羅	1,320	1,351	2,671	0.6%
27	青葉台中央公園前	1,254	1,330	2,584	0.6%
28	赤崎	1,329	1,195	2,524	0.6%
29	高須西一丁目	1,142	1,317	2,459	0.6%
30	ひびきの南	1,276	1,153	2,429	0.6%

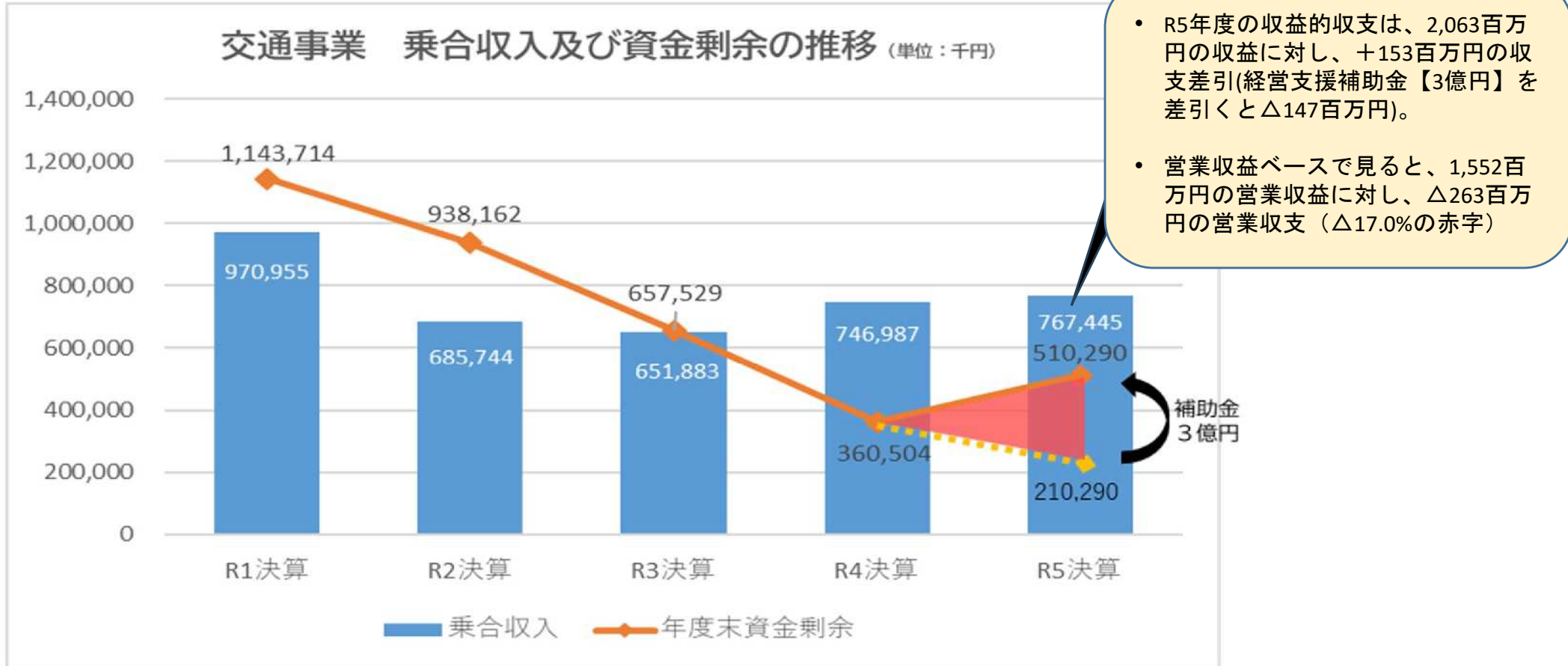
※SWAT分析データより抽出（期間：R5.2.1～R5.2.28）



## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（市営バス事業の財務状況の悪化①）

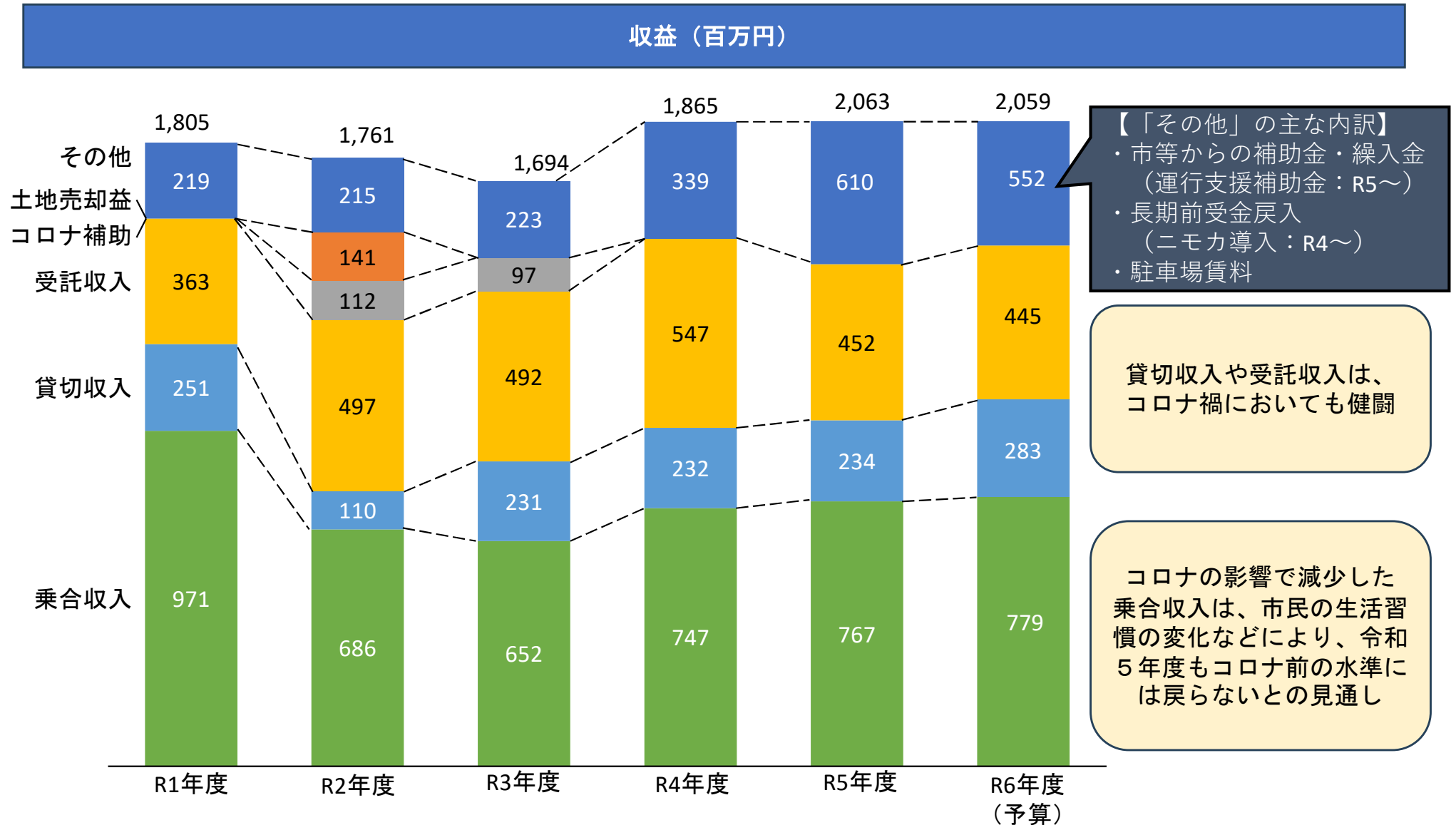
- 市からの経営支援補助金により、R5決算の累積資金剰余は1.5億円の増加（経営支援補助金がなければ1.5億円の減少）
- 累積資金剰余は継続的に減少しており、補助金がなければ、マイナスに転落する危機にあり、経営改善は待ったなしの状況

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが第5類になったものの、乗合収入が令和元年度と比較して、約2割減で推移しており、令和6年度の第1四半期においても同様の状況で、コロナ禍前の水準まで回復せずに推移している。



## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（市営バス事業の財務状況の悪化②）

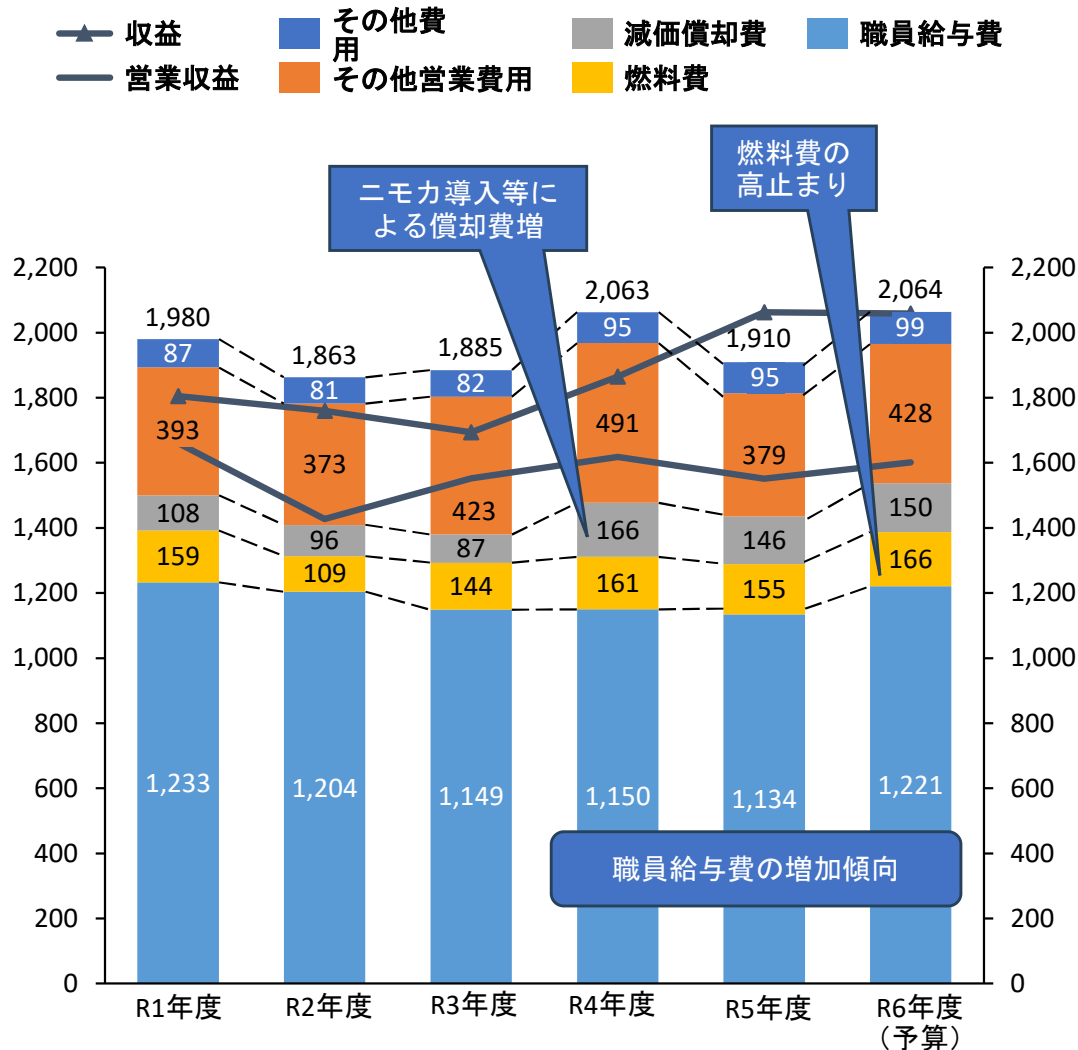
- 直近ではコロナの影響もあり、乗合収入が減少、これを貸切収入や受託収入でカバーしている



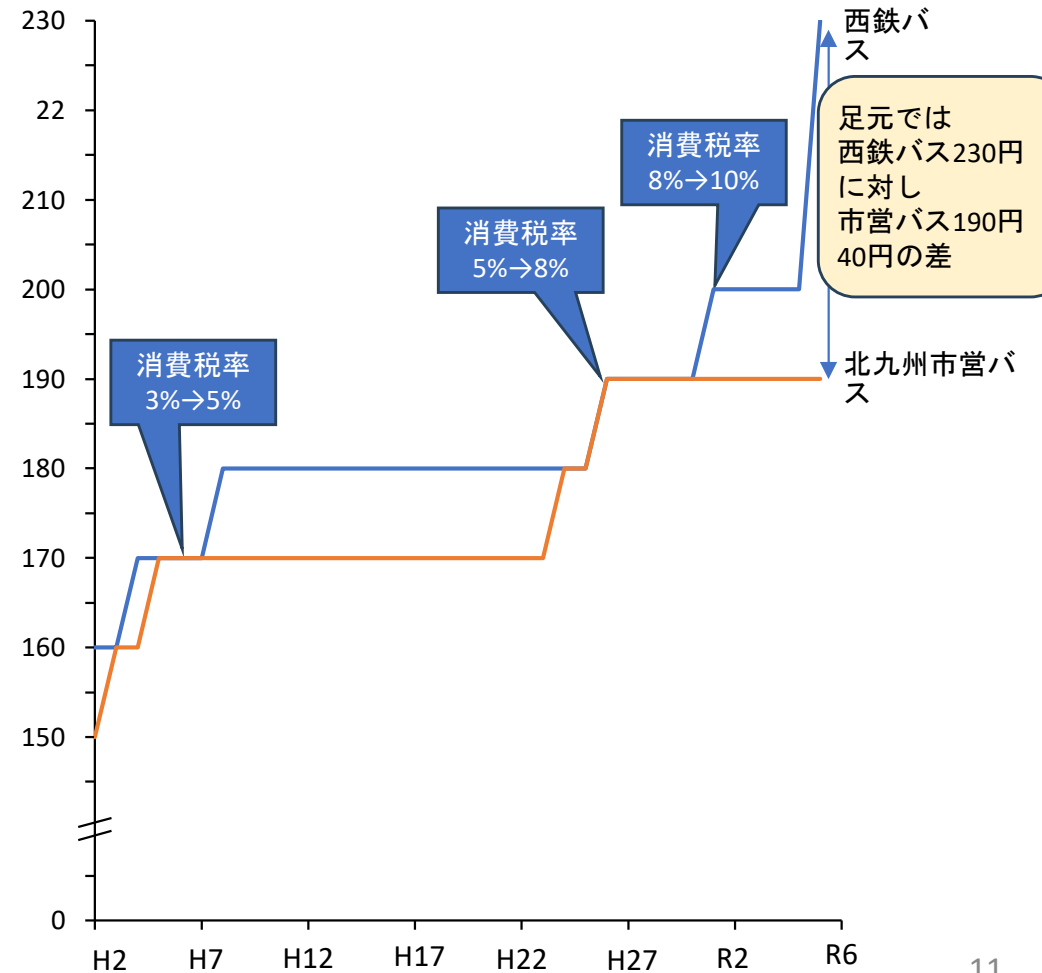
## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（市営バス事業の財務状況の悪化③）

- コストについては、ニモカ導入に伴う償却費増や、燃料費上昇、直近の人件費増などにより、足元では上昇傾向
- また、西鉄や他の公営バスも足元で料金アップを検討・決定している中で、北九州市営バスは平成26年度以降初乗運賃190円で横ばい。西鉄バスは直近でも値上げして230円に

コスト構造の推移（百万円）



西鉄バスと市営バスの初乗運賃の推移（円）



## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（市営バス事業の財務状況の悪化④）

年 月 日	交 通 局	西 鉄 バ ス
平成4年11月1日	改定率：5.1% 初乗料金：150円⇒160円	
平成6年3月1日		改定率：8.6% 初乗料金：160円⇒170円
平成7年8月16日	改定率：9.4% 初乗料金：160円⇒170円	
平成9年4月1日		消費税率3%⇒5%
平成10年8月1日		改定率：7.8% 初乗料金：170円⇒180円
平成24年4月1日	改定率：10.3% 初乗料金：170円⇒180円	
平成26年4月1日	改定率：2.9% 初乗料金：180円⇒190円	消費税率5%⇒8% 改定率：2.8% 初乗料金：180円⇒190円
令和1年10月1日	改定率：1.6% 初乗料金：190円⇒190円	消費税率8%⇒10% 改定率：1.9% 初乗料金：190円⇒200円
令和6年1月20日		改定率：16%程度 初乗料金：200円⇒230円

### 【交通局】

- ・消費税引き上げを除けば、  
**平成24年4月1日以降**値上げを実施していない。

### 【西鉄バス北九州】

- ・令和6年1月20日に運賃値上げを実施(約16%)

#### <値上げ理由>

- 利用者の減少
- 処遇改善
- 安全投資、環境投資
- 燃料費の高止まり

## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（市営バス事業の財務状況の悪化⑤）

- 令和2年度以降、運賃を改定した事業者数は109事業者、大部分は令和5年以降に申請
- 多くの事業者は直近で10～30%の値上げを実施している

### 令和2年以降に運賃改定申請をした事業者数

	事業者数	申請者数
全国	217社	109社 (50.2%)
一般乗合バス標準原価ブロック北九州 (福岡県、佐賀県、長崎県、大分県)	21社	11社 (52.4%)

参考：令和5年11月時点の申請状況

運輸局	運賃ブロック	事業者名	本省 権限	申請日	認可日	処理状況
九州	北九州	西日本鉄道	○	R5.6.15	R5.10.13	19.88% ↑
		西鉄バス北九州		R5.6.15	R5.10.13	21.20% ↑
		大分バス		R5.10.3		運賃改定率を審査中
		西鉄バス二日市		R5.6.15	R5.10.13	31.13% ↑
		亀の井バス		R5.6.15	R5.10.13	19.51% ↑
	南九州	鹿児島交通	○	R4.3.30	R4.9.9	20.70% ↑
		宮崎交通		R5.7.12	R5.9.13	20.22% ↑
		産交バス		R5.6.16	R5.9.15	10.22% ↑
		南国交通		R5.10.4	R5.11.17	40.03% ↑
		九州産交バス		R5.6.16	R5.9.15	10.19% ↑
		熊本都市バス		R5.6.22	R5.9.15	12.57% ↑
		鹿児島市交通局		R5.6.22	R5.9.8	18.97% ↑
		熊本電気鉄道		R5.6.19	R5.9.15	15.88% ↑
		熊本バス		R5.6.21	R5.9.15	16.77% ↑

出所：国土交通省



## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（運転者不足①）

- 全国的にも、令和4年度（2022年度）で、約7千人の運転者が不足
- 2024問題も加わり、令和6年度（2024年度）は、運転者の不足数は約2.1万人に増加し、一層深刻化
- 令和12年度（2030年度）には、約3.6万人が不足すると見込まれている。

バス事業の人手不足は、2024年問題も加わり一層深刻化

### バス運転者(2030年試算)

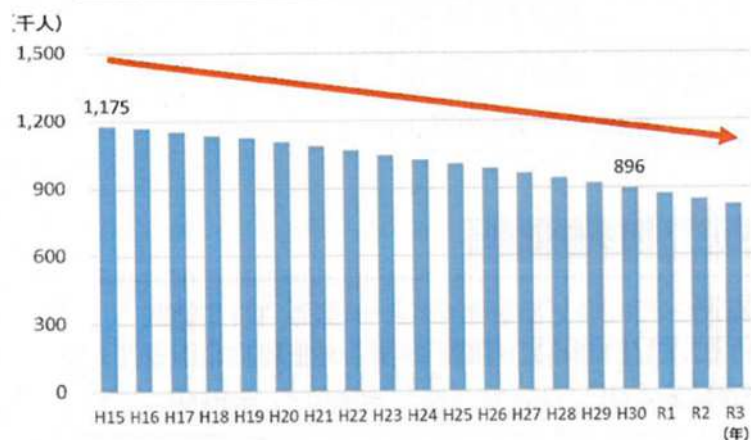
(日本バス協会試算)



## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（運転者不足②）

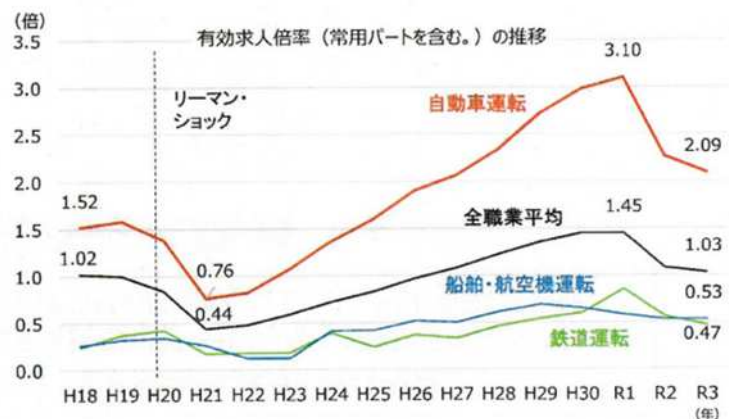
- 第二種大型自動車免許保有者数の減少もあり、自動車運転事業の人手不足が年々深刻化している中、2024年問題でバス運転手の長時間労働の是正対応を迫られ、バス運転手不足に更なる拍車

減少傾向にある第二種大型自動車運転免許保有者数



(出典) 警察庁「運転免許統計」より国土交通省総合政策局作成

自動車運転事業の人手不足



注)「自動車運転」、「船舶・航空機運転」及び「鉄道運転」は、厚生労働省「一般職業紹介状況」の「自動車運転の職業」、「船舶・航空機運転の職業」及び「鉄道運転の職業」の数値。国土交通省自動車局作成

### バス運転者の改善基準告示の改正 (R6.4)

- ✓ 1年の拘束時間及び1か月の拘束時間が短縮
- ✓ 1日の休息時間が拡大
- バス運転者の確保が急務



## 2 - (2) 市営バスを取り巻く現状と課題（運転者不足③）

- 九州や全国でもバスの運転者不足は深刻な問題となっており、減便や路線廃止が相次いでいる

参考：主な減便内容（一部）

令和5年10月 1日 西鉄バスグループ

- <福岡地区> 【対象路線】 23 路線(うち減便 17 路線)  
【減便比率】 平日:約 1.6%減、土曜:約 1.3%減、日祝:約 0.7%減
- <北九州地区> 【対象路線】 18 路線(うち減便 11 路線)  
【減便比率】 平日:約 1.9%減、土曜:約 0.4%減、日祝:約 0.6%減
- <久留米地区> 【対象路線】 5 路線(うち減便 3 路線)  
【減便比率】 平日:約 0.3%減、土曜:約 0.1%減、日祝:約 0.1%減
- <筑豊地区> 【対象路線】 2 路線(うち減便 1 路線)  
【減便比率】 平日:約 5.2%減、土曜:約 4.6%減、日祝:約 3.1%減

令和6年 3月16日 西鉄バスグループ

- <福岡地区> 【対象路線】 56 路線(うち減便 42 路線)  
【減便比率】 平日:約 4.1%減、土曜:約 4.0%減、日祝:約 4.1%減
- <北九州地区> 【対象路線】 13 路線(うち減便 8 路線)  
【減便比率】 平日:約 1.6%減、土曜:約 0.5%減、日祝:約 0.3%減
- <久留米地区> 【対象路線】 17 路線(うち減便 7 路線)  
【減便比率】 平日:約 3.6%減、土曜:約 4.5%減、日祝:約 4.2%減
- <筑豊地区> 【対象路線】 3 路線(うち減便 0 路線)  
【減便比率】 減便無し

令和6年 4月 1日 長崎県営バス、鹿児島交通、宇部市営バス、南国交通、西肥自動車(佐世保市)、横浜市営バス(1回目)

令和6年 4月22日 横浜市営バス(2回目)

令和6年 9月 1日 北九州市営バス

【減便比率】平日: 9.0%、土曜0.5%、日祝:0%

令和6年10月 1日 大分バス、祐徳自動車(佐賀県)、横浜市営バス(3回目)

## 2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（運転者不足④）

- 本市においても、欠員が深刻な状況
- 改善基準の改正により、既存運行本数を維持することも厳しい状況

時点	必要数	在籍数	欠員数
R1.4.1	186	163	▲23
R2.4.1	181	165	▲16
R3.4.1	166	157	▲9
R4.4.1	171	150	▲21
R5.4.1	170	149	▲21
R6.4.1 (R6.9.1)	171 (158)	141 (148)	▲30 (▲10)

年度内採用者数 27  
年度内退職者数 ▲25

年度内採用者数 17  
年度内退職者数 ▲25

年度内採用者数 8  
年度内退職者数 ▲15

年度内採用者数 15  
年度内退職者数 ▲16

年度内採用者数 15  
年度内退職者数 ▲23

▲23

▲16

▲9

▲21

▲21

▲30  
(▲10)

※処遇改善：令和6年4月1日実施

※ダイヤ改正：令和6年9月1日実施